



森田 則子

旧庁舎跡地を公園に

問 昨年、住民のいこいの場として、防災・健康機能を備えた公園に整備することを要望したが、その後の整備計画を問う。

答 今年度中に基本計画策定に取り組み、来年度、解体調査設計費等を計上する予定。周辺施設の防災という観点では、必要な設備は、整えていると考える。いこいの広場・健康の森などのコンセプトで公園については検討している。

公園内の防災品については、日々機能も強化・更新されている。見逃すことなく注視していく。

一、旧庁舎跡地を、防災・健康機能を備えた公園に
二、防災・減災対策で、安心安全なまちづくり



問 検討委員会の設置の状況と、住民の声はどう集約し反映するのか。

答 関係課長から構成した委員で、防災・福祉・生涯学習・庁舎管理の観点等を、慎重に議論していく。また、関係する付属機関等で把握している住民の声を、できる限り計画に反映していく。

防災・減災対策

問 避難行動要支援者名簿作成状況と、個別避難計画について問う。

答 要支援者名簿は、昨年11月に更新し、関係者に配布、共有している個別避難計画の策定はできていないが、要支援者と、顔の見える関係構築を、お願いしている。

問 全国の自治体では84%が、策定済みとある。要支援者は、日頃から関係者と繋がっている方が多い。専門職による計画策定の協力、福祉との連携を行っているかどうか。

答 民生委員の事務局や、福祉課とは連携していきたい。

一般質問



難波 希美子

木質バイオマス

問 所有者が森林整備を進める仕組みづくり「木の駅プロジェクト」の展望・課題を問う。

答 平成30年度から始めて4回、7日間、80tの木材を出荷し、チップや丸棒として利用している。出荷規格に合わせて木材を搬出することが難しいことが課題である。

問 能勢の木を使つての「メモリアルベンチ」を提案する。考えを問う。



一、木質バイオマス
二、みどりの食料システム戦略

答 現在導入予定はないが、能勢産材は様々な利用方法の普及促進を図っていく所存である。

みどりの食料システム戦略

問 能勢町食育・食農推進計画の策定から6年経つが、その成果を問う。

答 学校給食の地場産利用割合は約4割である。高齢者の孤食は配食サービス等で見守っている。健康と食育ということについて、今後検討していく。

問 町内の有機農業の面積割合を問う

答 約1%である。

問 私が聞き集めただけでも4%はある。調査してみてもいいか。



出典：農林水産省

答 遊休農地をなくし農空間を保全していくことが本町の課題。オーガニックビレッジに取り組む予定はない。